

木曾教育

第99号



木 曾 教 育

第99号

巻頭言 思いを新たに

木曾教育会長 宮坂 寛

新型コロナウイルス感染症が五月八日から「五類感染症」になり、第一三七回木曾教育会総集会は四年ぶりに参集開催となりました。しかし全員合唱はまだ難しいと考え、音楽同好会と有志の皆さんによる開会の音楽で「朝」と「大地讃頌」を合唱していただき、最後の「信濃の国」は木曾の名所が歌われる三番と四番のみを映像で流しました。集会後のアンケートでは「朝」の合唱が集まれることの喜びを高めてくれた」という感想も寄せられ、オンライン等様々な開催方法がある中で、会員全員が一堂に会する意味を改めて感じました。

また今年も第一線で活躍される先生方のお話を聴講できる木曾夏期大学が開校されましたが、夏期大学を終えて間もなく長年哲学講座を担当していた竹内整一先生の訃報を知りました。竹内先生は須坂市ご出身で東京大学文学部倫理学科卒業、日本倫理学会会長を務め東京大学名誉教授となり、夏期大学では通算二十七回講義していただきました。木曾教育会として葬儀には生花と弔電を送り、会を代表して参列させていただきました。参列された方々は皆、突然の別れをととても惜しんでいらっしゃいました。

生前竹内先生は夏期大学について、川音が響く暑い講堂で熱心に聴講する多くの方々があったこと、講義途中で休憩を告げる振鈴が鳴ること、終了後に木曾川沿いの店で食べる蕎麦が美味しいことを大変嬉しそうに話されていたそうです。毎回、古来より日本人に流れる心の有り様について熱心に講義されたことを深く胸に刻むとともに、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、三月の木曾町総合教育会議において、令和八年四月から木曾町内三中学校を統合する決定がされました。現在の木曾町中学校は、平成二十八年四月に福島中学校と三岳中学校が統合し開校しました。今後も郡全体の児童生徒数減少とともに、それに合わせた学校づくりや行事等の見直し、職員組織のスリム化といった様々な対応が必要になると思われまます。

未来を生きる木曾の子ども達と向き合う私たちが、職能向上の研修機会として共に学び合う教育会の役割は重要度を増していくと考えます。互いの教育実践に学び、事業報告を来年度へ繋げ、会員の先生方自らの参加・参画を促し、互いに切磋琢磨できる教育会を目指したいと思えます。

木 曾 教 育 会